

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | | | |
|----------------|--|-----------------------|---|--|-------|----|--------|
| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | |
| JAPANサッカーカレッジ | 平成14年1月9日 | 中村 勉 | 〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357 | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | |
| 学校法人 国際総合学園 | 昭和32年10月10日 | 池田 弘 | 〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565 | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 文化・教養 | 文化・教養専門課程 | サッカー専攻科 | 平成15年文部科学省告示第14号 | — | | | |
| 学科の目的 | 3年間を通して指導者ライセンス保有者による指導を受け、技術・戦術・体力の強化を図る。また、Jリーグクラブであるアルビレックス新潟のアマチュア育成組織として、実際にプロクラブの指導者から技術・戦術を学び、経験を積むことで卒業後に即戦力となる人材を育成する。 | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成14年4月1日 | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼間 | 3264時間 | 640時間 | — | 576時間 | — | 2048時間 |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | |
| 120名 | 75名 | 0名 | 5名 | 5名 | 10名 | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留) | | | |
| 長期休み | ■夏期休業:8月1日～8月31日 ■冬期休業:12月20日～1月7日 ■春期休業:3月15日～4月5日 | | 卒業・進級条件 | ■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング) | | 課外活動 | ■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動: 無 | | | |
| 就職等の状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) サッカー業界(全国のJリーグクラブや地域クラブ) ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業生数 : 30 人 ■就職希望者数 : 25 人 ■就職者数 : 25 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.3 % ■その他 卒業生数30名中4名進学 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) | | 主な学修成果(資格・検定等)※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 9名 平成29年4月1日時点において、在学者77名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者68名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気・怪我、進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施 | | 中退率 | 11.6% | | | |
| 経済的支援制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 ご家庭の経済状況から学費の準備が厳しい場合に、全国的に多く用いられている日本学生支援機構の奨学金から、NSGカレッジリーグ独自の制度まで、豊富な奨学金制度が利用可能。(日本学生支援機構奨学金制度(第一種・第二種)・NSGカレッジリーグ無利子奨学金制度(新卒者・新卒者以外)・NSGカレッジリーグ母子・父子家庭奨学金制度・NSGカレッジリーグ災害奨学金融資制度・地方自治体の奨学金制度・国の教育ローン・NSGカレッジリーグ提携教育ローン・NSGカレッジリーグ学費奨学融資・その他公的な奨学金・民間団体の奨学金)http://mydreamsjp/scholarship ■専門実践教育訓練給付:無 | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価:無 | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | http://cupsnet.com/about/course/soccer/ | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ サッカー専攻科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ サッカー専攻科が、(株)アルビレックス新潟と連携し、授業や外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県内のみならず日本全体のサッカー業界において即戦力となる人材の育成システムを牽引していくことができるような関係を構築していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会で協議された事項および企業からの要請について、JAPANサッカーカレッジ教務部で再度協議し、より実践的かつ専門的な職業教育の実現に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月4日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------|----------------------------|----|
| 国枝 晴隆 | 新潟県下越地区サッカー協会理事 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | ① |
| 神田 勝夫 | (株)アルビレックス新潟強化部長 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | ③ |
| 小出 隆一 | JAPANサッカーカレッジ顧問 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | |
| 中村 勉 | JAPANサッカーカレッジ学校長 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | |
| 原 朋洋 | JAPANサッカーカレッジ教務部長 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | |
| 森 俊輔 | JAPANサッカーカレッジ事務局長 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | |
| 板垣 雄平 | JAPANサッカーカレッジ学科主任 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年2月9日(金) 16:00～17:00

第2回 平成30年8月31日(金) 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

より一層サッカー専攻科としての専門要素を深めるために、特に「分析」をテーマにし、実際に指導にあたる現場以外での学びの質を向上させる必要があるとの意見を頂き、カリキュラムに取り入れている。実技・実習と講義のバランスを再度見直した方がよいという意見があったため、カリキュラムに反映させている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

(株)アルビレックス新潟と連携し、プレーヤーとして、また指導者としての技術・技能を向上させ、卒業後にサッカー界において即戦力となる人材を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業インターンシップ授業において、(株)アルビレックス新潟の指導者より実際に指導を受ける。プレーヤーとして技術戦術を学ぶと共に、(株)アルビレックス新潟が運営するサッカースクールで実習も行う。実際に(株)アルビレックス新潟のプロコーチによるサッカー指導を間近で見て学ぶとともに、実際にプロコーチの指導のもと実習を行いアドバイス・評価をいただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|------------|---|--------------|
| 企業インターンシップ | (株)アルビレックス新潟へのインターンシップを通し、プロの現場を直接学びその経験をもとに卒業後にサッカー界において即戦力となる人材を育成する。 | (株)アルビレックス新潟 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月(前期)・9月(後期)に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年3月20日(月) 対象:サッカー専攻科教員3名

内容:子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「全国専修学校教育研究会主催教育コーチング研修」(連携企業等:全国専修学校教育研究会)

期間:2017年11月14日(火) 対象:サッカー専攻科教員2名

内容:コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニングを実施

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認B級コーチ養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:2018年6月11日(月) 対象:サッカー専攻科教員2名

内容:サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「一般社団法人実践行動学研究所主催リーダー研修」(連携企業等:一般社団法人実践行動学研究所)

期間:2018年8月30日(木) 対象:サッカー専攻科教員2名

内容:学習意欲の低い学生・コミュニケーションが苦手な学生・留学生等について各校の辞令発表やで対応方法などを協議し、自校での指導に役立てることを目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|---------------|
| (1) 教育理念・目標 | 1. 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | 2. 学校運営 |
| (3) 教育活動 | 3. 教育活動 |
| (4) 学修成果 | 4. 学修成果 |
| (5) 学生支援 | 5. 学生支援 |
| (6) 教育環境 | 6. 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | 7. 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | 8. 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | 9. 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 10. 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | 11. 国際交流 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い11名の評価委員に評価していただいている。委員会より「サッカー専攻科ではより一層プロに近づくための実習時間の確保が必要」との意見が出され、カリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2018年9月4日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------------|----------------------------|------|
| 国枝 晴隆 | 新潟県下越地区サッカー協会理事 | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | ① |
| 奥山 達之 | (株)アルビレックス新潟アカデミーダイレクター | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | ③ |
| 小出 隆一 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 顧問 |
| 中村 勉 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学校長 |
| 原 朋洋 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 教務部長 |
| 森 俊輔 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 事務局長 |
| 板垣 雄平 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学科主任 |
| 竹川 昌彦 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学科主任 |
| 山中 惟嗣 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学科主任 |
| 諏訪 雄大 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学科主任 |
| 小池 光徳 | JAPANサッカーカレッジ | 2017年11月1日～2019年10月31日(2年) | 学科主任 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:http://www.cupsnet.com/pdf/h28_01.pdf

公表時期:2018年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|-------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 1. 学校の概要、目標及び計画 |
| (2) 各学科等の教育 | 2. 各学科の教育 |
| (3) 教職員 | 3. 教職員 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | 4. キャリア教育・実践的職業教育 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 5. 様々な教育活動・教育環境 |
| (6) 学生の生活支援 | 6. 学生の生活支援 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 7. 学生納付金・修学支援 |
| (8) 学校の財務 | 8. 学校の財務 |
| (9) 学校評価 | 9. 学校評価 |
| (10) 国際連携の状況 | 10. 国際連携の状況 |
| (11) その他 | 11. その他 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<http://www.cupsnet.com/pdf/outline.pdf>

授業科目等の概要

| (文化・教養専門課程サッカー専攻科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|------|------|--------------|---|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ○A I | Microsoft Excelを使用した表計算の基礎を学び、Excel検定3級取得を目指す。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | ○A II | 文章入力から編集の基礎を学び、一般的なビジネス文章(社外文章、社内文章、案内状など)を作成できるようにする。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | ○A III | Microsoft Power Pointを使用し、様々なツールを学びながら効果的なプレゼンテーションをおこなう技術を身につける。 | 2前 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 英会話 I | テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目指す。 | 1通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 英語 II | テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、学生自らがその状況に応じた英会話ができるようになることを目的とする。 | 2・3前 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | コミュニケーションスキル | 自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 就職実務学 | 自己分析を含め就職とは何かを考えさせるとともに動機づけを行う。就職活動のマナー、面接、スピーチ対策等を実施し就職活動への準備を目的とする。 | 2通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 進路就職活動 | サッカー業界における企業を中心に研究を進め、自分自身の目指す職種や志望動機を固める。 | 3通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 実践行動学 | 動機付けプログラムである実践行動学のテキストを用い、自身の夢・目標の実現に向け、現在の立ち位置を確認する。 | 1～3前 | 48 | 3 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 社会常識論 | 社会人になった際に必要となってくる一般常識を学び、教養を身につけると共に、全経主催の社会人常識マナー検定合格を目指す。 | 2後 | 16 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 監督ゼミ | 各チーム監督により出された課題について考察し、チーム力向上に繋げる。 | 1～3通 | 96 | 6 | ○ | | | ○ | | ○ | | |

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------|------|---------------------------|---|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | インターンシップ／就職活動 | 在学中に働くということに対する意識を持つために職業体験を実施。サッカーに限らず様々な業種の職業体験を行う。 | 3通 | 64 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 企業インターンシップ | 株式会社アルビレックス新潟と連携し、インターンシップとして実習を実施することで、卒業後に即戦力となる人材を目指す。 | 2通 | 64 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | | ○ | アルビレックスシンガポールインターンシップ | アルビレックスシンガポールと連携し、サッカーを通して海外文化に触れ、国際的に活躍できる選手を目指す。 | 2～3通 | 352 | 22 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| | | ○ | 早期就職 | 早期に就職が決まった際はその活動を優先させ、業務を早期に習得し即戦力となる人材を目指す。 | 3通 | 96 | 6 | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | スポーツニュートリション | スポーツ栄養学を学び、自身の体づくりに役立て、パフォーマンス向上に繋げる。 | 1通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | スポーツ概論 | サッカーに限らずスポーツ全般の意義・文化・歴史・国際理解・経済などを学ぶ。 | 2通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | スポーツ障害外傷論 | スポーツにまつわる様々な外傷・障害について、どのようなメカニズムで発生するのかを学び競技力向上に繋げる。 | 1通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 妙高園研修 | 1・2年次の初旬に、妙高園プログラムを活用しチームビルディングを行う。団体行動の基本や規律、協調性を身につける。 | 1～2前 | 128 | 8 | ○ | | | | ○ | | ○ | |
| | | ○ | アルビレックスシンガポールインターンシップ（語学） | アルビレックスシンガポールインターンシップを選択した学生は現地にて英語の講義を受講する。 | 2通 | 32 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 戦術理論／ゲーム分析 | サッカーの原理・原則、プレーの優先順位など講義を通して学ぶ。また、試合の映像を用いて分析し、競技力向上に繋げる。 | 1～2通 | 64 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | サッカー実技 | 実技トレーニングを通して、サッカーにおける技術・戦術・体力の向上を目指す。 | 1～3通 | 1536 | 96 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | サッカー実技実習・遠征 | 公式戦・対外試合・遠征・合宿を通してプレイヤーとしての経験をつむ。 | 1～3通 | 384 | 24 | | | ○ | ○ | | ○ | | |

| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------|------|-------------------------|---|------------------|------------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 夏期トレーニング | 夏期にトレーニングを通して、技術・戦術・体力の向上を図り、シーズン後半へ繋げる。 | 1 ~ 3 通 | 3 8 4 | 24 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 冬期トレーニング | 冬期にトレーニングを通して、技術・戦術・体力の向上を図り、次シーズンに向けて準備をする。 | 1 ~ 3 通 | 1 2 8 | 8 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 卒業研修 | 卒業年次生においては卒業研修を実施し、今後社会に出てからの準備を行う。 | 3 後 | 64 | 4 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| | | ○ | アルビレックスシンガポールインターンシップ実技 | アルビレックスシンガポールインターンシップを選択した学生は、シンガポールにてトレーニングや試合を通して競技力向上に努める。 | 2 ~ 3 通 | 1 6 9 6 | 1 0 6 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| | | ○ | 早期就職活動 | 学生それぞれが選択する進路希望に基づき就職活動を積極的に行う。 | 3 通 | 4 1 6 | 26 | | | ○ | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | | 28科目 | | 3264時間 | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | 授業期間等 | |
|---------------------------------------|----------|-----|
| 必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。 | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | 1学期の授業期間 | 16週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。